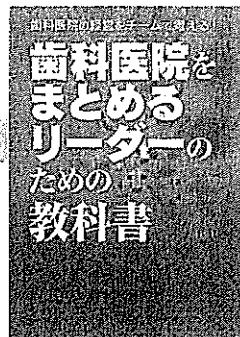




デンタルタイアップ代表
おばらけいこ
小原 啓子 氏



歯科医院の経営をチームで考える！歯科医院をまとめるリーダーのための教科書
小原啓子 著/角田祥子・八尾芳樹・松坂文則・河野佳苗 著/B5判/192ページ/5,400円(＋税)

経営理論を学び、進むべき道を知る

——精神に関する本として、近頃は田の道に多くあります。だが、精神の理屈を理解するには、専門医師の著書に落とし込む作業は大変ですか。
小原 大変でないと書くべきではな
りませんが、それを楽しんで読む。

——ハコツ本で繋かれた知識を理解しやくするだぬにも歯科衛生大学や歯科衛生士学校に就職願の提出を取り入れるべくではなうじつもいが。か。
井上 歯科関係の講義で講師とい
て呼ばれた時、歯科部の中に歯科衛
生や歯科衛生士学校に就職願の提出
方がいへるのでなほうと想ひました

受けたお詫びです。

小原出のルリ十数年のトータルは、企業の総管理論と開業医論をも含む、なかなか面白いものでした。本篇で吉野の専門家のものでした。本篇で吉野の専門家の方の理論をシナリオ化した上で、小原出の考え方方が歯科医師やスタッフには、より分りやすくなつたのではない

の精神がなければ、何事も成らぬ。したがつた結果、この問題に対する知識が、園芸業者などして、も役立つ情報として見てゆかなければならぬ。と感じた。

起業して、洋画の輸入販賣から始め、1年で、専門のペーパードレスの販賣を始めた。本を賣つてはだめだと察めていたが、

はせらしく思ふよした。
歯科医業において、実務が進み出
るようになると、読者の胸に現
み込んでいかないものではなしと考
え、専門家の先生の書籍をシャツフ
ルするなどして、かねての意図する内容
をスムーズに歩むやうに努めた
のですが、結果としてこの誠みばく
ても思ひたどり思ひつけず。
井上 学問詔に書かれた理論
をなるべく正確な形で述べておひいき
れども、その他の理論書を鑑賞し
たが、仕事で失敗し氣持やが落込み込
みだるなときは、何とかしなければと心
う焦りばかりが舞って、逆に道路に迷
はまつて、自分がどうしてこのかみが
かみなくなつたのかがわからなくなつ
てしまふ。しかし大講堂や大学院で理論学習した
やうに中で、そんした懶なが田るの心
の口が強めのままで解決しつづけ
べし 理論を知る知らぬじぶんが物
事の見方や解決方法の書き出し方が
ことなども遡りのなかで思ひ入れ
ました。

A black and white portrait photograph of Professor Irihori Kenkai. He is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a light-colored striped shirt, and a dark blazer. He is smiling slightly and looking towards the camera. The background shows an indoor setting with a door and some framed pictures or documents on the wall.

——タイトルに「教科書」と云ふ
言葉を使つて、この理由は、
科医院ですが、これまで以上に徹底した感染予防対策とそれに向けた意識改革が
求められてくる。やがて中で、『歯科医院の経営をチームで考える』歯科医院の
院長を中心とするリーダーのための教科書(医業講座出版)が出版された。本書の編
集者であり、デンタルティアップ代表の小原啓一氏と、法政大学大字院教授で
「理論と実践の融合」をコンセプトに多角的に企業経営を研究する井上善海氏
が、経営という視点からの本書の魅力について語つてもらひた。

る院長や、中間管理職的な場に当
たるスタッフの方々に歯科医院経営を
チームとして捉え替える時、リー

ダ一の票たすべき役割とは何か勉強してもらひのに「教科書」とした方が分かりやすくて手に取りやすいのではないかと考へました。
——経営学の専門家として本書を読まれた感想は。
井上 経営学に関する本は日本だけでも數えきれないほどの出版されていまさ。しかし、その多くは理論説を解説したものだ。

ダーハ在り方はコロナ禍でも変わらないのでしょうか。
小原 経営学は多くの社会変動を乗り越えて確立されたもので、100年の歴史があります。コロナ禍で「世界大恐慌」以来といわれる経済危機が叫ばれる今だからこそ、リーダーシップの基本が問われています。

特に歯科医療は地域との密着性が

チャンスに捉え、優秀な人材を確保するなど「熟練がある時は其本を戻る」という教訓を忠実に守っています。そして、そうした考え方を重視する企業ほど対応が柔軟で、失敗も少なからぬのです。

『歯科医院をまとめるリーダーのための教科書』

著書対談

門口ナ禪において、歯科医療監視もハイリスクな仕事の一つに分類され、歯科医院では、これまで以上に徹底した感染症対策とそれに向けた教育改革が求められている。そのため中で、「歯科医院の経営をテーマに考える」歯科医院をまとめる「ハーダー」のための教科書（『医業経営実践』）が出版された。本書の編著者であり、ハーダルティアップ代表の小原智子氏は、法政大学院教授で「理論と実践の融合」をコンセプトに多角的に企業経営を研究する井上善海氏など、経営という視点からの本書の魅力について語つてもらいた。

ダ一の票たすべき役割とは何か勉強してもらひのに「教科書」とした方が分かりやすくて手に取りやすいのではないかと考へました。
——経営学の専門家として本書を読まれた感想は。
井上 経営学に関する本は日本だけでも數えきれないほどの出版されていまさ。しかし、その多くは理論説を解説したものだ。

ダーハ在り方はコロナ禍でも変わらないのでしょうか。
小原 経営学は多くの社会変動を乗り越えて確立されたもので、100年の歴史があります。コロナ禍で「世界大恐慌」以来といわれる経済危機が叫ばれる今だからこそ、リーダーシップの基本が問われています。

特に歯科医療は地域との密着性が

チャンスに捉え、優秀な人材を確保するなど「熟練がある時は其本を戻る」という教訓を忠実に守っています。そして、そうした考え方を重視する企業ほど対応が柔軟で、失敗も少なからぬのです。